



姉妹都市提携20周年宣言を手にする
舟橋市長とデーラー市長

深まる 姉妹・友好都市 のきずな



川越市の姉妹・友好都市

川越市は、昭和四十七年に福島県棚倉町と友好都市提携を結んだのを皮切りに、現在は、国内外の四市一町一村と姉妹・友好都市提携を結んでいます。ことし、米国オレゴン州のセーレム市との姉妹都市提携が二十周年を迎えました。それを祝い、さらに姉妹・友好都市のきずなを深めるための式典が十月十三日に行われました。

この記事では、セーレム市との姉妹都市提携二十周年記念式典と「姉妹友好都市サミット」を通して、姉妹友好都市との関係について紹介していきます。問い合わせ：国際交流課国際交流担当・田内線2142

セーレム市との姉妹都市 提携二十周年を祝して

昨年、姉妹都市提携二十周年を前に川越市民号がセーレム市を訪れ、両市間の姉妹都市関係をいっそう発展させる合意書が取り交わされました。

十月十三日、川越にセーレム市長をはじめとするセーレム市民訪問団を迎え、セーレム市との姉妹都市提携二十周年を祝い、記念式典が行われました。この式典には、セーレム市だけではなく、他の姉妹・友好都市からも首長をはじめ、多くの皆さんが参加しました。第一部として行われた式典では、両

市の今後の相互理解をいっそう深め、友好のきずなをさらに強固なものにするための、姉妹都市提携二十周年宣言が行われました。この宣言には、舟橋功一川越市長、加藤昇川越市議会議長、ジャネット・テラー・セーレム市長、アーサー・バーマン・セーレム市長、アースー・バーマン・セーレム市長、川越姉妹都市委員会代表の五人が署名を行いました。

川越を訪れたセーレム市民訪問団の皆さんは、十四日に市内見学の後、川越まつりの山車ぞろいを見物。山車行列に参加し、町内の皆さんと時折、会話を楽しみながら、山車を曳きました。



① 式典の様子
② 音楽で式典に参加した、高階中学校吹奏楽部の皆さん
③ 山崎家別邸を見学
④ 山車曳きを体験



舟橋功一 川越市長

交流を通じて、私たちは「友人」から「家族」の関係になりました。家族のきずなをいっそう発展させ、新しい姉妹都市関係を将来にわたって築いていくために努力を続ける必要があると思います。



加藤昇 川越市議会議長

市民の皆さんが外国との交流を通して、国際感覚を身に付け、住民役の国際感覚あふれるまちづくりが推進されることは、たいへんすばらしいことだと考えています。



ジャネット・テラー セーレム市長

二十年前で、両市はたくさんのお話を成し遂げました。これは、単なる友人を超え、もつとたくさんのお話ができることと信じてやまない、太平洋を挟んだ両市の多くの皆さんの努力によるものです。



アーサー・バーマン セーレム川越姉妹都市委員会会長

姉妹都市になり、川越の皆さんが私たちにくれた機会に感謝します。川越の皆さんも私たちと同様に感じていることを願っています。姉妹都市関係をこれからの百年、いえ、もつと続けていきたいと思います！



立原雅夫 川越市姉妹都市交流委員会代表

さまざまな交流を通し、両市の友好を深めてきました。特に、次代を担う青少年の交流を毎年実施し、大きな成果をあげていることは、両市の将来においてたいへん意義のあることだと思います。